

「小児の運動性疾患の介護等に関する研究」

-----簡易型電動車椅子利用の障害児の実態調査-----

分担研究者 心身障害児総合医療療育センター 君塚葵
研究協力者 心身障害児総合医療療育センター 城良二

研究要旨 平成9年度より従来の手動車椅子と電動車椅子にくわえて、両者の機能をもった簡易型電動車椅子が福祉用具の支給対象となり、その利用者が増えてきているが、その効用・問題点などについての検討はなされていない。

そこで、障害児を中心とした38名の利用者にアンケートにより、利用経験を尋ねた。重量・馬力・バッテリー時間などへの要望がかなり見られたが、多くは基本的に満足しており、その効用が確認された。

A.研究目的

給付対象となってから2年を経過したので、徐々にその利用者が増えてきたが、まだ全国的にはその利用は少なく、効用あるいは問題点が把握されていない。心身障害児総合医療療育センターなどで処方された簡易電動車椅子を利用している脳性麻痺児を中心に、利用に際して経験し感じている使用感を通して、その役割と課題を把握することである。

B.研究方法

38名のアンケート調査を行った。症例は半数が脳性麻痺であり、ついで進行性筋ジストロフィーなどの筋疾患が5例、骨形成不全症や先天性無痛無汗症、二分脊椎、リウマチなど種々の疾患となっている。年齢は20歳以下が約1/3を占めている。性別では男17名、女21名であった。

また身障手帳は48%が1級、34%が2級となっていた。

アンケート項目は簡易電動車椅子を知った経緯、作成した所、総合的な満足の有無、交付に際しての金銭及び手続きでの負担、自由記載意見と簡潔なものとした。なお怪我などの事故についても調査したが、内容が明らかでない点が見られる考えたので、省略した。

C.研究結果

簡易電動車椅子を知ったきっかけは病院におい

てが30%と最も多く、展示場が23%業者よりの紹介15%、新聞雑誌8%、知人8%、施設5%、養護学校3%となっており、さまざまな経路から情報を得ていた。作成した場所については、病院30%、療育施設21%、業者18%、福祉先生13%、学校5%、とやはりさまざまな所であった。

全体としての評価としては、満足している48%、中間41%、不満11%であり、多くは評価していると考えられた。

改善点としては重複要望となっているが多い順位に1)バッテリーの走行距離の向上(30名)、2)重量をもっと軽くして女性でも運べるようにして貰いたい(18名)、4)馬力についても最高速度を6Km/hとおおきくし、坂道や段差の乗り越えの機能の拡大(13名)、5)コントローラーの使いやすさ(8名)、6)価格を低くして(8名)、6)座位保持姿勢の向上機能を持つように(6名)、7)そのほか携帯性・外観などの要望が(12名)見られた。

自己負担金額についてみるとなしが7名で、なしを含めて3万円以下が9名であったが、21万円以上が9名いて、バラツキが大きかった。

交付を受けるに際しての手続きについては、大変だった8名21%、そうではなかった32%、他の装具と同じであった21%と窓口での理解については概ね悪いものではなかった。

その他の自由意見としては、行動範囲の拡大しさまざまな利点がみられたとか本人の宝物となっているなどの好意的な意見と転倒して怪我をしたり、後方へ不安定性があるとしたものがみられた。コントローラーを落として壊して修理を要して負担となったとの意見もみられた。

D. 考察

簡易電動車椅子は手動と電動の両者を使い分け、平地では手動を用い運動量の確保に役立ち、坂道や遠出では過労を避けることができるものと位置づけられました。JW1の本体を含めて23Kgほどで、従来の電動車椅子の80Kgに比べるとかなり軽くなっていて、すべての手動車椅子にJW1を取り付けられ、かつ折り畳みができるので、車への搭載も比較的容易となっています。

簡易型電動車椅子には国産品と外国製品とがありますが、日本製の中で、安価で普及してきているヤマハ発動機製のJW1と呼ばれる電動ユニットの

ものについて、障害児を中心として利用者へのアンケート調査をおこなったところ、基本的にはその期待された役割は果たされていて、有用との評価を得ていた。

一方で、バッテリーの性能・重量・コントローラーの使いやすさ・価格・携帯性などについての要望も多く見られ、今後の課題となる点が確認された。

特に転倒しやすさについては今後も注目して行かなければならないと考えている。

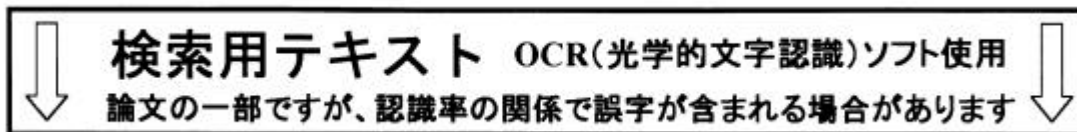
E. 結語

簡易電動車椅子は収納性に優れつかいやすさなど満足度は高かった。バッテリーの容量・重量・馬力についての改善要望が多く、今後の改良が待たれる。後方への転倒が報告され、転倒防止バーの調整など使用開始時の調整・操作習熟が必要と思われた。

F. 学会発表

日本リハビリテーション医学会学術総会 第35回
青森、1998.

簡易型電動車椅子JW1の紹介



研究要旨 平成9年度より従来の手動車椅子と電動車椅子にくわえて、両者の機能をもった簡易型電動車椅子が福祉用具の支給対象となり、その利用者が増えてきているが、その効用・問題点などについての検討はなされていない。

そこで、障害児を中心とした38名の利用者にアンケートにより、利用経験を尋ねた。重量・馬力・バッテリー時間などへの要望がかなり見られたが、多くは基本的に満足しており、その効用が確認された。